

白石地域

白石地区地域づくり協議会

★活動の概要

白石地区では、平成21年6月に白石地区地域づくり協議会を立ち上げ、多くの事業を展開しています。

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	10,613人
世帯数	4,770世帯

★交付金額

3,758,114円

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 地域に開かれた学校・PTA活動推進事業

(実施内容)地域に開かれた学校・PTA活動推進事業として環境教育の聴衆参加型講演会を実施しました。

(成果・評価)PTAと学校、地域が協働して環境・エコをテーマとしたイベントを実施し、環境やエコについて、学校や地域で意識の共有が図れました。

(今後に向けて)今後も、講演会の参加者を増やし、地域全体にエコや環境に関する意識を広げていきたいと思ひます。



■ 白石地区お祭りスタンプラリー

(実施内容)白石地区の町内6か所のお祭りに、スタンプラリーを設置(8月~9月)子ども達が参加する事業です。

(成果)21年度の参加者は33名でありましたが、当該事業が子ども達に認知されたこともあり、22年度は64名に参加者が増加しました。子ども達にお祭りスタンプラリーが認知され子ども達の興味をひくことができました。

(評価)

白石地区のお祭りを知るよいきっかけづくりができました。

(今後にむけて)スタンプを集めることをとおして、お祭りの由来や言い伝えをもっと知ってもらえるようにしたいです。



■ 地域づくり計画策定

白石地区地域づくり協議会では、より良い地域づくりを効率的に進めるために計画をつくりました。まず、昨年10月より4つの専門部会(総務部会、保健福祉部会、環境部会、文化体育部会)を立ち上げ、各部会員と各々6回の会議をして話し合いをしました。各部会では、住民の意見の集約と広報、地域住民の健康増進や高齢者のいきがづくり、防災・防犯対策、安心・安全な生活環境・自然環境の保護、青少年の健全育成・伝統行事保存・体育の振興に関する課題を取り上げ、解決するための事業をもり込んだ地域づくり計画を策定しました。

(今後に向けて)

この地域づくり計画を基に関係団体との連携による活動で、地域の課題解決を図って行きます。

■ ゴミ出しボランティア

(実施内容) ゴミ出しが困難な高齢者(独居老人を含む)と手伝うボランティア双方を募集してゴミ出し支援活動を行ないました。

(実施時期)平成22年10月～平成23年3月

(参加人員)サポーター19人、依頼者5人

(成果)依頼者が5人あり、サポーター(19名)による活動を展開しています。

(評価)広報「しらいし」等による告知活動をしました。まだ事業開始最初ということもあり、地域全体への浸透には時間がかかりますが、初年度の活動としては評価できるものと思います。

今後は、白石地区社協の団体を中心とした継続的な活動として目指していきます。

■ 芋掘り

(実施内容) 芋の苗植え・収穫等の畑作業を通じて食物を育て収穫を楽しむことができました。

(成果) 6月5日の苗植えで、10月30日に芋掘りをして予想以上の芋の収穫もあり、子どもたちが自然にふれる実体験が出来ました。

(評価) 苗植えはたくさんの参加があったが、草取りや芋掘り(収穫)への参加が少し鈍かったのが残念でした。

(今後に向けて) 苗植えから収穫までの過程を、子どもたちがしっかりと体験できるようにプログラムを考えたいです。



【今後の地域づくりに向けた思い・取組み】

平成23年度から5か年の地域づくり計画を策定し、各分野において、様々な事業を今年度も計画しています。それが地域にとって有意義なものになるようにしていきます。また、新たに計画されている新規事業も同様に、地域に役立ち、活性化に繋がっていくようにしていこうと思います。

湯田地域

湯田地区コミュニティ運営協議会

★活動の概要

湯田地区では平成21年に地域づくり協議会を設立し、ボランティア団体の活動活性化等に力を入れています。

★交付金額

9,397,970円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	12,408人
世帯数	6,000世帯
地域の キャッチフレーズ	優しく、美しい、誰もが、 安心するまちづくり

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ ボランティア団体の活動支援

ボランティア団体による地域づくり活動を推進するため、17団体に補助金を支出しました。

三世代交流どんど焼き・七草がゆ
(湯田地区青少年健全育成連絡協議会)



第23回湯田地区西京老人だいがく
(湯田地区老人クラブ連合会)



湯田地区育児学級:ベビーマッサージ教室
(山口市母子保健推進協議会湯田地区)



■ ホームページの作成

情報発信のひとつとして、平成22年9月にホームページを作成し、公開しました。



湯田地区コミュニティ運営協議会



■ ふれあい安心安全フェスタの開催

警察署、消防署、日本赤十字社等の協力を得て、防犯・防災・消防・交通安全・救急に関する体験型のイベントを開催しました。

会場には非常食コーナーも設けられ、多くの住民が試食をしました。

消防放水体験



交通安全コーナー



非常食試食コーナー



■ 湯田地区セフティネットワーク・パトロール

毎月第2・4金曜日の午後9時から繁華街や住宅街をパトロールしています。このたび防犯功労団体として、山口県防犯連合会から表彰をされました。

出発前の集会



繁華街パトロールの様子



■ 高齢者福祉事業の支援

高齢者福祉事業の一環として実施されているふれあい型給食事業について、調理に必要なテーブル等を購入し、衛生面の向上を図りました。



吉敷地域

吉敷自治会

★活動の概要

地域づくり協議会の設立に向けた自治会規約の改正等の検討を進め、地域づくりのための体制強化を図っています。

★交付金額

7,427,000円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	14,573人
世帯数	5,998世帯
地域の キャッチフレーズ	笑顔があふれる ふれあいのまち

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ ホタルの飼育・放流事業



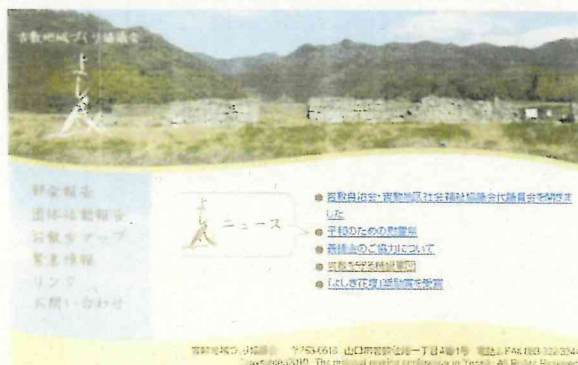
良城小ホタル委員会の協力のもと、吉敷川のホタルの飼育・放流を行いました。併せて、小学校でホタルを主題とした作品を募集・表彰するなど、ホタルが飛び交う美しい吉敷川の自然

を守る環境意識の啓発に取り組みました。



■ ホームページによる広報事業

平成22年から開設したホームページの更新を通じて、地域情報の発信を行いました。当初は、なかなか更新作業に慣れず頻度が少なかったものの、地域のみなさんの励ましで少しずつ更新数を増やしていくことができました。



■ 吉敷地区セーフティネットワーク事業

学校からの提供情報などを地域の登録者に発信し、登下校時の見守り活動に利用しています。不審者情報や台風などの災害情報などを発信しました。また、見守り活動に使うキャップやベストを作成しました。



■ 吉敷の花壇展開事業



交通量の多い国道435号沿いに、国体花いっぱい運動で育てた花を使った花壇を作り、多くの人たちに吉敷が地域をあげて取り組んだ成果を見ていただくとともに、地元を主会場として開催される国体をPRしました。



■ 地域コミュニティ活性化事業

運動会や夏まつり、ふるさとまつりについて、自治会を中心とした実行委員会による主催と改めました。

特にふるさとまつりでは、一般からの企画スタッフが発案した企画として、来場者の手形を集める「手形で作る 吉敷の木」が制作され、多くの方の参加をいただきました。



■ アナログ放送停波の啓発

ふれあい型給食会のお弁当の包装紙に地上デジタル放送への切替についての記事を掲載し、高齢者への啓発活動を行いました。配食される方が、お渡しする際に直接記事内容についてお話することもできるので、通常のチラシよりも効果が高いと思います。



平川地域

平川コミュニティ推進協議会

★活動の概要

情報の共有と、団体間のつながりが持てるように、お互いの協力と親睦を大切にした活動を展開しています。

★交付金額

14,663,832円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	15,759人
世帯数	7,421世帯
地域の キャッチフレーズ	つながる 笑顔

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 自主防災組織づくり事業

自主防災組織づくりに向けて、講演や、図上訓練を行いました。自治会をはじめ、消防団や、民生委員さんなどと一緒に、自分たちが住んでいる近辺を中心に訓練しました。住民意識を高め、自分たちで取り組めるような組織づくりを進めています。



■ 不法投棄撲滅運動事業

不法投棄があった場所に「貧乏神神社」と書かれた小さな鳥居を設置しました。日本人の鳥居に対する心理作戦での効果が楽しみです。KRY、TYS、サンデー山口でも取り上げられました。



■ スポーツ大会開催

スポーツに親しみながら3世代交流や、団体間の連帯・親睦を深められました。打ち合わせから様々な団体が関わりながら、初めての試みとして、グラウンドゴルフ大会を開催しました。当日は、約120名の参加があり、豚汁のふるまいもあるなど、たいへん盛り上がりました。



■ ウォーキングマップ作成事業

福祉員が、万歩計を装着し、自ら歩いて、時間や歩数を計測した上で、マップづくりが行われました。

調査中は、たくさんの触れ合いもありました。

来年度から、このマップを活用した交流が始まるので楽しみです。



■ クリーン作戦

青少年健全育成協議会を中心に、平川地区全体を巻き込んだ草刈りやゴミ拾い等の清掃活動を行いました。中学校、西京高校、中村女子高校専攻科、山口大学からも多くの参加者がありました。団体として、自治会として、また親子でゴミを拾ったりと、いろいろな立場の人たちが、自分たちの手で平川地区をきれいにしました。



■ 広報誌作成

まずは、コミュニティ推進協議会を知ってもらおうと、広報活動に力を入れました。広報誌の発行と、地域外にも発信できるように、ホームページを立ち上げました。協議会の活動内容等をお知らせすることで、協議会への理解が深まりました。一部の人間だけではなく、広く、住民の手でまちづくりを行っていただけるようになるといいな～。



大歳地域

大歳自治振興会

★活動の概要

自治会活動の活性化とともに、平成21年夏の大水害の反省から、防災組織の設立をメインに活動を展開しています。

★交付金額

8,461,000円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	13,131人
世帯数	6,120世帯
地域の キャッチフレーズ	みんなでつくろう、明るく 住みよいおとしを

※数値は、平成23年5月1日現在のもの

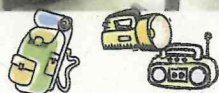
■地域の災害に備えた安全対策

平成21年夏の豪雨災害で浸水した地域の自治会長や公募により集まった地域住民等で構成する「自主防災対策検討委員会」を設置し、防災アドバイザーの指導を受けながら、自主防災組織の立ち上げや今後の防災活動などについて、積極的な協議・検討を重ねました。(計11回の会議)

平成23年度からは、名称を「安心安全部会」として、防災安全はもとより、生活安全、交通安全などと併せて活動をスタートさせます。

自主防災対策検討委員会の会議の様子

(自助、共助、それから公助...)



■自治会の活性化(1自治会1事業)

富田原自治会のラジオ体操の様子

(子どもからお年寄りまで一緒に、1・2・3...)



自治会内のふれあいを目的とした、地域清掃、世代間交流など、新規事業や行事を新しく始めた自治会に対して、その活動を支援するための助成を行いました。

年度当初からの行事予定・計画にない取り組みを自治会ごとに検討され、半分以上の自治会で実施されたことは、日頃の地域活動への関心の高さが感じられました。

平成23年度も継続して助成を行い、自治会の活性化を進めていきます。



■ 子育て広場の設置



子ども同士が自由に遊び、親同士が交流を深め、また、母子保健推進委員会を中心としたスタッフから子育てのアドバイスが受けられるように、子育て広場「風和里(ふわり)」を設置しました。(開催回数10回、延べ参加者約300人)

開催回数を重ねるごとに、参加者の育児に対する悩みやストレスも和らぎ、子どもや母親同士の交流も増えるなど、地域で子どもを育てる意識が高まったように感じます。

子育て広場「風和里」の様子



■ 文化活動の推進

大歳 の 史 跡、旧 跡 を 紹 介 す る 案 内 板 を 4 箇所に設置したことにより、現地で史跡に関する情報を得ることができるようになりました。

今後5年間で、地区内20箇所に同様の案内板の設置を進め、史跡マップも作成するなど、地域住民が自由に散策し、郷土を学ぶことができるようにしていきます。



朝田地区「五の宮旧跡」の案内板

(なるほど、そうなのか...)



■ 道路環境美化事業

有志の大歳草刈隊によって、吉敷川や朝田川沿い市道の環境美化作業が行われ、見違えるほどきれいになりました。

大歳草刈隊による道路環境美化作業

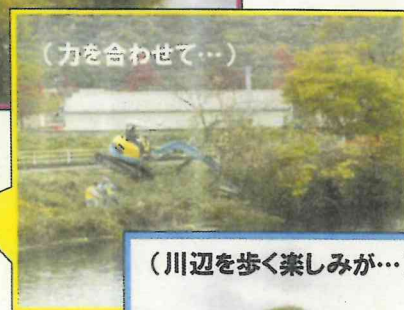
(すごい！竹や草...)

作業前



(力を合わせて...)

作業中



(川辺を歩く楽しみが...)

作業後



陶地域

陶連合自治会

★活動の概要

陶地域では、平成20年4月に地域を包括する団体として陶連合自治会を立ち上げ、活発な活動を展開しています。

★交付金額

9,493,782円

★地域の情報(連合町内会単位)

地区人口	2,506人
世帯数	1,092世帯

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 陶づくりセミナー事業

山口県立大学や市の地域づくりアドバイザーの協力を得て、熟年世代(50代後半～60代前半)を対象にセミナーを開催しました。

「地域参加によるセカンドライフの充実」をテーマに体験発表やワークショップが行われ、参加者から活発な意見が出されました。



■ 広報活動事業

地域づくり活動や地域の行事等を紹介する広報誌を毎月発行し、全戸配布しています。

平成21年に開設されたケータイサイトも毎月2回内容を更新され、地域全体で情報の共有が図られています。



■ 「高齢者にやさしい陶マップ」改訂事業

高齢者が安心して生活するために、必要な地域情報をまとめたマップを平成17年に発行していましたが、発行から5年を経過した節目にリニューアルし、全戸配布をしました。

新しいマップは、情報量が豊富で、活用しやすいものに仕上げられています。



■ 自主防災対策事業

平成20年度から進めている災害時の「土のう」づくり用土置き場は、22年度には、3ヶ所目が整備され、地域全域をカバーできるようになりました。

また、防災用品を揃えた保管庫の整備をするとともに、秋には消防団の協力を得て「土のう」づくり講習会を開催するなど、地域の自主防災対策を進めています。



■ 道路環境美化活動事業

陶地域は、環境美化活動に積極的に取り組んでいます。

中でも「陶クリーン作戦」と銘打って平成20年から始めた国道・県道周辺の環境美化活動は、地区民の約1割が参加するまでに拡大し、地元企業や小中学生も一緒になって活動に取り組んでいます。



■ 地元文化育成事業

新たな地元文化の育成を目的に、地元の音楽愛好家の演奏会「music^{すくらむ}陶来楽夢」を開催しました。

地元でなかなか披露する機会のない音楽愛好家の貴重な演奏会ということで、多くの聴講者があり、盛大な演奏会となりました。



【今後の地域づくりに向けた思い・取組み】

これまでの取り組みの基本に、反省点を活かしながら、住民の願いである「きれいな地域づくりを進める陶」「心豊かに暮らせる陶」を目指して地域づくり活動を展開していきます。

鑄銭司地域

鑄銭司自治会

★活動の概要

鑄銭司地区では、22 年度より 5 専門部会が 5 ヶ年計画のもとに、たくさんの協議を重ねながら、本格的な活動を展開しています。

★交付金額

8, 045, 400円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	2, 865人
世帯数	1, 385世帯
地域の キャッチフレーズ	「鑄銭司に住んでよかった。これ からも住み続けたい」鑄銭司

※数値は、平成23年3月31日現在のもの

■ 鑄銭司自治会青壮年部発足

これまで準備委員会で進めてきた「鑄銭司自治会青壮年部」を平成 22 年 5 月に発足し、総会および記念イベントを開催しました。記念イベントでは、郷土史家の内田伸先生をお迎えし、学習会の後に参加者全員による「周防鑄銭司跡」の探訪を行い、郷土に残る地域資源の再確認をしました。

鑄銭司自治会青壮年部とは、概ね 20～60 歳の者が相互親睦を図るとともに、『元気で活気ある地区』に向かって、共に考え、共に汗を流し、共に活動することで、地域に新しい活力を創り出そうという目的で結成された団体です。



■ 四辻駅生まれ変わる！

平成 6 年 12 月に四辻駅が無人化となり、待合室も徐々に寂びれて殺風景となってきたことから、これを蘇らそうと、鑄銭司自治会総務部が協議を重ね、歓迎サインと、特大の鑄銭司情報パネルの設置を行い、目を見張るような立派な駅舎に生まれ変わりました。



■ 国体応援ロールベール出現

国道 2 号線沿いセキスイハウス山口工場の反対側の田んぼに、国体応援の文字と「ちよるる」が描かれたロールベールがお目見えしました。

牛の冬の保存食として利用されるロールベールを地元で開催する国体の応援に活用しようと、鑄銭司小学校の児童に文字や絵を描いてもらい、機運醸成に努めています。



■ 鑄銭司キャラクター決まる！

鑄銭司自治会では、幕末維新の先覚者「大村益次郎」の生誕地として、もっと広くPRしようと、鑄銭司地域のシンボルとしてキャラクターづくりに取り組んできました。

今後は、鑄銭司地域内外のイベント等でこのキャラクターを活用し、地域の振興を図っていきたいと思います。



【大村益次郎という人物とは？】

鑄銭司の医者家で生まれ、若き日より適塾などで多種多様な知識を吸収し、当代随一の洋学者と言われています。幕末維新では、先覚者として先頭に立って改革を実行し、その手腕は明治政府でもいかに発揮されました。